

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

### \*鹿児島宇宙空間観測所人工衛星追跡シュミットのフィルム13本を発見

国立天文台天文情報センターでは、旧図書館に収蔵されていた写真乾板などの整理を行っている。この写真乾板の中には100年以前の乾板が発見されるなど貴重なものが発見されている。収蔵されている写真乾板のうち、堂平観測所関係のものは大島紀夫氏が、ブラッシャー天体写真儀による天体写真乾板、明らかに由来の分かった天体写真乾板については佐々木五郎氏が整理している。筆者は由来が知れない乾板、フィルムなど雑多な写真乾板、フィルム、写真などの整理を引き受けている。

今回は筆者に渡された中にあったブローニ版フィルムがまかれた13本の(写真1)の報告である。これらのフィルムについてのメモ書きと思われる紙片(写真2)も同時に見つかった。



写真1 今回収蔵したフィルム13本

このメモ書きを書いたのは、東京天文台岡山天体物理観測所から宇宙科学研究所に移った瀬尾基治氏である。署名には新設部(工学)観測部 瀬尾基治と書かれている。

フィルムは古いもので、フィルムを巻いた状態でガムテープにメモが書かれたものが6本、はがれたガムテープが1個、フィルムにデータが書かれたものが1本、メモ書きとフ

フィルムが同定できるものはこの7本のみである。何もメモが書かれていない6本のうち4本は瀬尾氏のメモ書きにあるその他であろう。

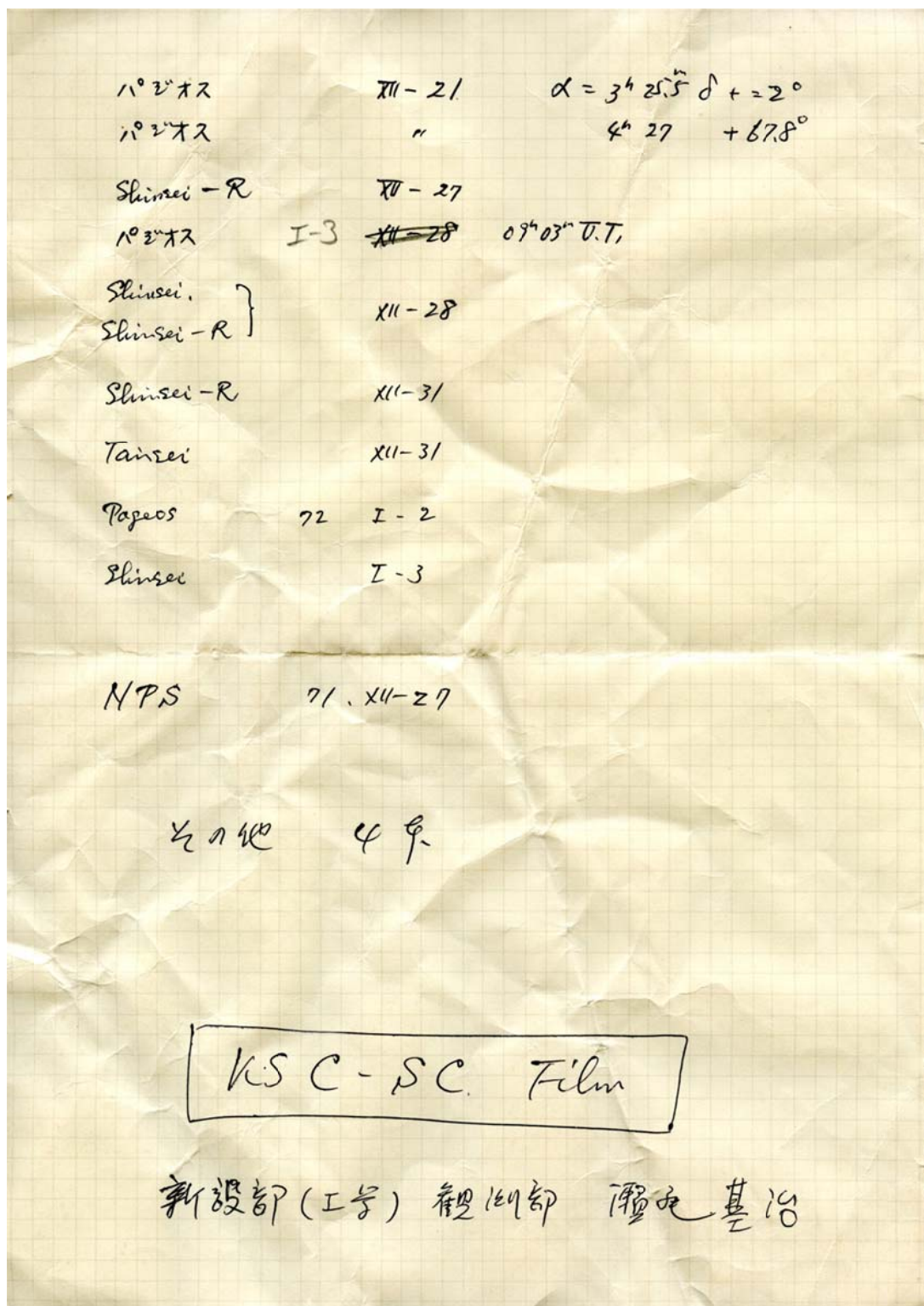


写真2 フィルム13本と一緒に発見されたメモ書き

メモ書きにあるように、KSC-SC Filmとあるから、宇宙科学研究所鹿児島宇宙空間観

測所のシュミットカメラのフィルムである。撮影された人工衛星の名前、Pageos、Shinsei、Tansei など懐かしい名前がある。フィルムの例が写真3である。この写野の中にはたくさん星が写っている。人工衛星が写っていれば点像に写っているはずであるが、この画面には点像は見当たらない。人工衛星をトラッキングしている間に星が流れ、セクターで切られている様子が写っている。その部分の拡大が写真4である。



写真3 ある一コマ

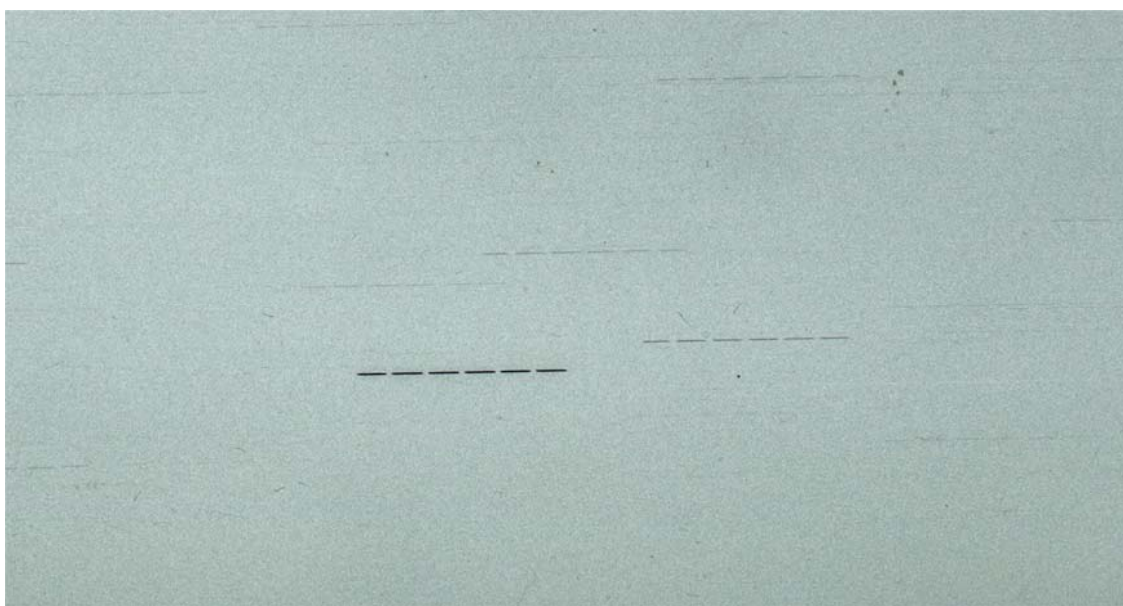


写真4 写真3の右下の拡大写真

実際に人工衛星を追跡観測していた観測者には、これらの写野の中に人工衛星像を見ることができるのであろうが素人の筆者の手には負えない。

これらのフィルムの中に筆者が興味を駆られた写真が4枚ばかりあった。その1はオリオン星雲を撮影したもの(写真5)、その拡大写真(写真6)、その2はプレアデス星団を撮影したもの(写真7)、その拡大写真(写真8)、その3がバラ星雲を撮影したもの(写真9)、その拡大写真(写真10)、その4は星野写真だが対象が不明のもの(写真10)である。

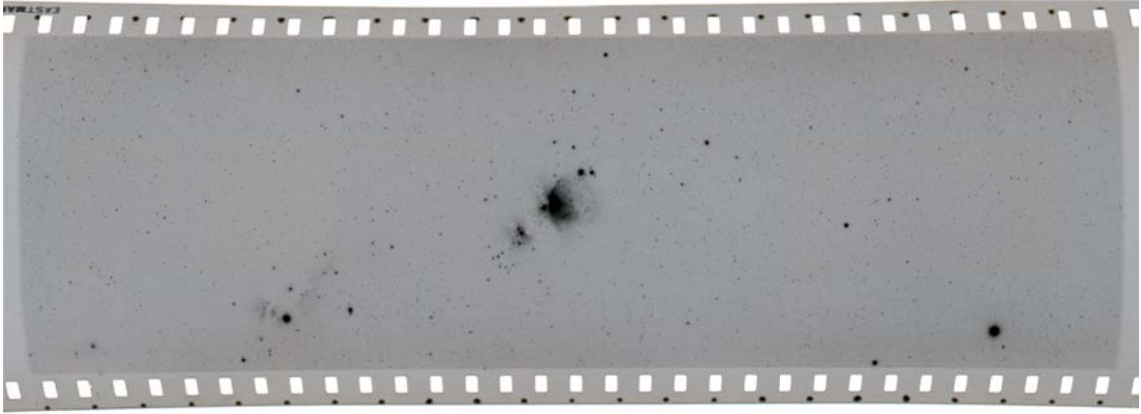


写真5 オリオン星雲を撮影したもの

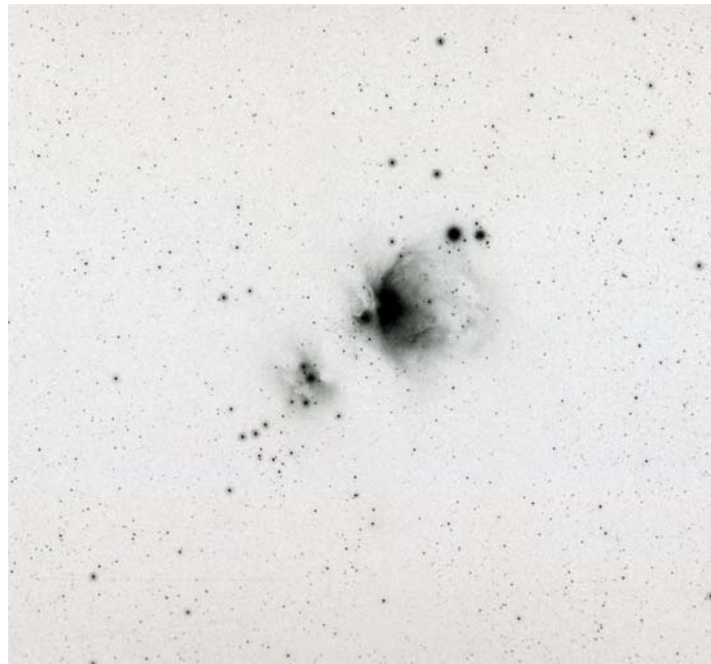


写真6 オリオン星雲の拡大写真

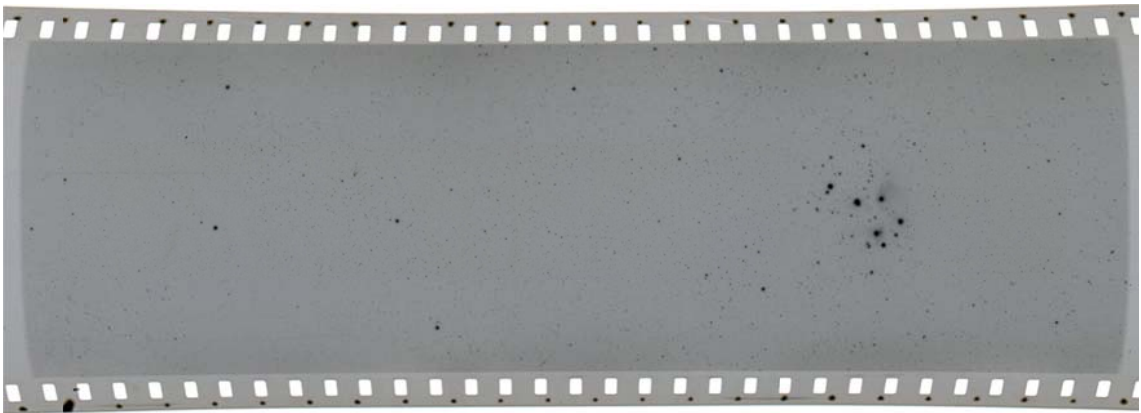


写真7 プレアデス星団を撮影したもの

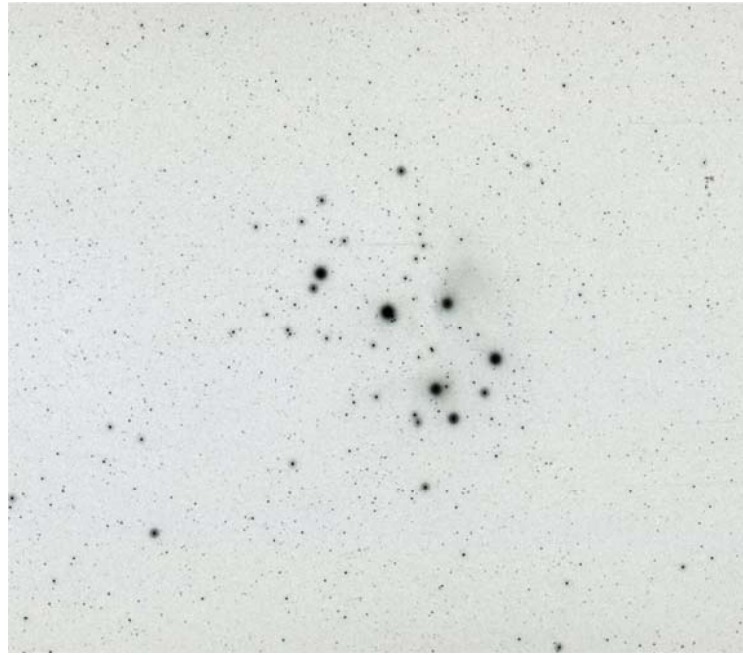


写真8 プレアデス星団の拡大写真



写真9 バラ星雲を撮影したもの



写真 10 バラ星雲の拡大写真



写真 11 撮影対象不明の星野写真

これらのフィルムすべてはデジタルデータとして取り込んではいない。短いフィルム5本分はスキャナーで読み込んだ。それらの興味深いものを紹介した。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)